

学校教育目標	【学校教育目標】共に創り 共に歩み 共に輝く ○基礎・基本を大切に、自ら課題を解決しながら、共に学び合う力を育てます。【知】 ○他者との豊かな関わり合いの中で、互いのよさや違いを認め合い、共に高め合える姿勢を育てます。【徳】 ○健康や安全の大切さに気づき、自分や他者の生命を尊ぶことのできる、心も体も健やかな子どもを育てます。【体】 ○地域の人々や自然とのかかわりを通して生き方を学び、自らできることを考えて実践できる力を育てます。【公】 ○私たちの「まち」綱島を愛し、綱島の自然や文化の素晴らしさを受け継ごうとする態度を育てます。【関】					
	学校概要	創立 74 周年	学校長 金森 孝子	副校長 魚住 千尋	2 学期制	一般学級: 22 個別支援学級: 5
児童生徒数: 682 人		主な関係校: 新田中学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	新田中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
【綱島小学校】 感謝の気持ちを持ち、自他を思いやり認め 合う子 — 聴く力、伝える力 — 【新田中ブロック】 自分づくりに関する力	新田中学校 新田小学校 新吉田小学校 新吉田第二小 学 校	「人との関わり」や「自他の思いや願い」を大切にできる子 ・「自分づくりに関する力」をブロック全体で育てたい資質・能力として設定し、各教科領域において、資質・能力を意識した授業を展開する。(ブロック小中一貫合同授業研を年2回実施。) ・児童生徒交流日に、6年生が中学校の合唱練習に参加し、交流する。 ・授業部活動見学(6年)を通して、中学校生活への意識を高める。

中期取組目標	<p>○子ども一人ひとりが思いや考えをもち、共に学び合いながら、主体的・対話的に学びが深まるような教育活動を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年目は、子どもたち全員が考えをもち、互いに学び合おうとする姿を目指します。 ・2年目は、子どもの表現を大切にしながら共に学び合い、子どもたち全員の学び合う力が高まるように育てます。 ・3年目は、共に学び合うことで、互いに考えを深め合えることができるようになります。 <p>○綱島のまちの「人」「もの」「場所」を生かし、「感謝」「思いやり」「認め合い」「聴く、伝える」といった身につけたい力を明確にしなが ら、綱島を愛する心を育てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間を通して、一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活が送れるようにします ・「感謝」「思いやり・認め合い」「聴く、伝える」という資質・能力育成をめざした授業改善、学級経営、学年経営に取り組みます。 ・学校行事を充実することで、綱島小の一員である意識を高め、「チーム綱島」として力を発揮できるようにします。 ・通級指導教室、一般学級・個別支援学級担との連携、情報交換、研修等を通して、チーム力向上を図ります。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 確かな学力	①どの教科でも、児童が自分の考えや思いをもち、伝え合い、認め合い、主体的、対話的に取り組むことができるような授業展開を推進する。 ②授業を通して身に付けさせたい資質・能力を見据え、多様な児童の実態に対応できる授業づくりを行う。
担当 評価・カリマネ委員会	
徳 豊かな心	①年間を通してペア学年の取組を充実させ、自他を大切にする思いやりの心情を育てる。 ②年間計画を基に、児童主体の学級活動を推進し、自己有用感を高めるとともに、互いのよさを認め合う機会を継続的に設ける。
担当 人権・児童指導委員会	
体 健やかな体	①体育の授業の手立ての工夫や「つなスポ」委員会の取組を通して、運動することの楽しさを味わわせ、日常的な運動習慣の形成につなげる。②学校保健委員会の実践や養護教諭との連携による保健についての確かな知識を得る機会を通して自分の心や体の健康や成長に関心をもてるようにする。③栄養職員と連携しながら給食指導等を通して食の大切さを伝える。
担当 健康安全委員会	
公 自分づくり・地域連携	①綱島の「人」「もの」「場所」の材を生かし、「まち」に生きる一員としての自覚を高めるために、本校ならではの学習の充実と展開を図る。②地域との繋がりを実感し関わる中で、感謝の気持ちを持ち、伝えることができる場を設けたり、自分にできることを考えて実行したりする。③自分づくりパスポートを活用し、自らの変容や成長を自覚し、自己有用感を高められるようにする。
担当 評価・カリマネ委員会	
いじめへの対応	①YPの理念を軸とし、教科指導や特別活動を充実させることで、温かな学級風土づくりをしたり、児童の豊かな心を育成したりして、いじめの未然防止に努める。②年2回のYPアセスメント、いじめアンケートや教育相談を行い、即座に結果を教職員で共有することでいじめの早期発見に努め、児童支援専任を中心として全職員での情報共有やいじめの組織的な対応を図る。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)	①教科分担制、少人数指導など、授業形態を工夫し、職員が連携し合うことにより、児童理解の共有や教材研究の質の向上など、チームとして取り組む組織づくりを行う。②5年次以下の職員を中心にメンターチームを組織し、研究授業や研修を通して授業力の向上を図る。③ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図る。
担当 教務部・メンター	
特別支援教育	①個別の教育支援計画・指導計画を活用して、児童一人ひとりに合った支援や教室の環境整備をしていく。②児童が落ち着いて取り組めるようにユニバーサルデザインを意識した授業や環境づくりを目指す。③通級職員との情報共有を密にして連携を深めるとともに、積極的にセンター的機能を活用していく。④特別支援教室「つなぐルーム」などの少人数指導を充実させる。
担当 特別支援委員会	
児童・生徒指導	①担任、学年の教員や専科教員など多くの職員で児童と関わり、情報共有して児童理解に努める。 ②綱島スタンダードを全職員が共通理解し、同じ方向性で指導を行い、定期的にフィードバックを行って、ルールの徹底を図り、児童が安心、安全に生活できる環境を整える。
担当 児童指導委員会	
教育課程学習指導	①学年研を核として、児童を多面的に見ながら「共同的な学び」「個別最適な学び」を構築する授業改善に取り組む。②カリキュラム全体を系統的な視点で捉え、PDCAサイクルを機能させた学校全体の実践を積み重ねる中で、指導と評価を一体化させたカリキュラム・マネジメントを推進する。③情報活用能力の育成、情報モラルの理解、情報の信頼性の検討、複数の情報から課題解決する学びの構築など、さらなる活用能力の向上を図ってICT教育を進める。
担当 評価・カリマネ委員会	
通級指導教室	①一人ひとりに応じた支援ができるよう研修会を設定し、個別の指導計画の適正な活用や合理的配慮の充実が図れるよう情報を発信していく。②通級担当者としてスキルアップ研修を行い、特別支援教育の充実を図る。③協働型巡回指導により通級担当教員の児童への指導・支援や担任等への助言、個別の指導計画の共有を通して、教員の専門性の向上や校内支援体制の充実を図る。
担当 通級連絡委員会	